



♪CONTENTS♪

- 森の人インタビュー（塔下守さん）
- 間伐・製材体験会に参加しました
- 藤田木材へ見学に行ってきました
- 8月以降に開催予定の主なイベント
- 第8回百年の会総会
- 連載（森林・林業小話 26）
- 林業 BAR で飲食を楽しみました
- 編集後記

No.37（2016.8.3 発行）

森の人インタビュー

第13回

第13回は京北町で素材生産を行っている塔下守さんにお話を伺いました。話題の中心は、来たる9月17日と18日に開かれる予定の「京都京北 木こり技能大会」でした。

まずは塔下さんにどうして木こり技能大会を始めようと思ったのかを聞いてみました。元々は、北桑木材市場の役員をしている塔下さんと井口さんの二人が「山の現場で働いている人が主人公の運動会をしてみたい」と言って始めたそうです。林業を産業として支えている人に自信を持って仕事に取り組んでもらうためにも、力試しの場を必要との考えです。木材価格が低迷する中で、なるべくこれ以上の低落を防ぐためには、架線集材など現場の技術を守り、伝えることが求められます。技能を競い合う大会を開くことで、山の現場から乖離しがちな国や自治体の施策へのアンチテーゼにもなります。

初心者部門とプロ部門の2つをつくって実際に開催してみると、これまで気づけなかった新たな発見があったそうです。普段は他の人に見られる機会の少ない作業をプロ同士が互いにチェックするので、何がロスになっているのか、事故の原因かなどが可視化されるからです。土木業など林業以外の他業種、京北以外の地域における技術を間近に見る貴重な機会ともいえます。大会の競技は、立木の伐倒と採材、伐採木の運搬、丸太の移動の3種目で、あえて実践的なルールが採用されています。

立木の伐倒と採材は、例えばある業者が3.8メートルで切っても北桑木材市場では販売できないので、点数になりません。伐倒してからも、そのまましておくわけではなく、後始末も考慮する意味を込めてグラップルを用いて作業道の近くにまとめるところまでを競技としています。実際には、チェーンソーのチェーンやチルホールのワイヤが切れたり、予想以上に枝払

いに時間がかかったりなど、ユニークな試みだけに苦労も多いようです。

伐採木の運搬の競技では、空のフォワーダを300メートルのコースを走らせるタイムトライアルのレースです。丸太の橋や急坂、外径カーブ、スイッチバックなど伐採木の運搬に必要な基本動作を組み込んでいます。2014年と2015年には土木業に従事する人が優勝しており、その人はカーブで前方でなくクローラの後輪の動きを確認して走行しているのが印象に残ったとおっしゃっていました。

グラップルで丸太をつかむ競技は、2人同時にスタートし、6段まで積み重ねるスピードを競います。サイズが揃っているように見えても、丸太の形は不規則なので、積む時には見極めがとても大事になってきます。2015年にはプロ部門で2つの枠を用意し、片側の枠からもう一方へ移動させる方式で行っています。

2016年は、「あうるの原っぱ」と呼ばれるところを会場にする予定で、フェイスブックに最新の情報がアップロードされています。関心のある方は、「京都京北 木こり技能大会」で検索してみてください。サイトには2015年の大会の動画が公開されています。

塔下さんのお話を聞きながら、林業関連のイベントが本当に現場の林業者のためになっているのかをきちんと考えられていないことに気付かされました。技能を持った人が自主的に取り組む今回のイベントに私たちがどう関わるか、じっくり考え直すとてもいい機会になりました。（青山・野瀬）



塔下守さん(京北森林組合木材加工センターにて)

★藤田木材へ見学に行ってきました★



燻煙処理した木材の木口面



プレーナーで表面を加工

5月28日に京都府宇治市にある(株)藤田木材の笠取作業所の見学に行きました。

京都市伏見区六地藏辺りから車を走らせ山の中に入っていくと、20分ほどで笠取作業所が見えてきます。山積みされた木材たちが出迎えてくれます。まず、見学したのは燻煙熱処理施設。燻煙熱処理では木材の含水率の軽減だけでなく、木材中のリグニンの軟化促進、無酸素状態での熱処理による木材の寸法、形状の安定化も期待できるそうです。見学した時は、ちょうど燻煙熱処理炉が開き、黒くすすけた木材が現れました。黒い表面を削れば普通の木材とほとんど変わりません。含水率(表面)を計測すると11.2%でした。熱処理の燃料は、工場内から出た端材でほとんどすべて賄えます。これを燃やし隣のスペースに入れた木材を10日間かけて乾燥させます。その間、中を見ることはできないため、外のバルブで温度調整をします。

他にも加工場を見学し、垂直方向に歯が動く帯鋸やカンナをかけるプレーナーを見せてもらいました。また、見学の途中で樹種当てクイズをしたり、アルバイトの誘いを受けたり終始和やかな見学でした。(衣笠)。

※第8回百年の会総会※

5月29日の午前10時から京都市下京区にあるひと・まち交流館京都の地下1Fの(公財)京都市景観・まちづくりセンターのワークショップルームにおいて、第8回総会を行いました。

総会に先立ち、エーゼロ株式会社 取締役(兼)高島しこぶち事業所長の清水安治さんから『岡山県西栗倉村から始まる「エーゼロ」の展開』と題するお話を伺いました。エーゼロ株式会社(代表取締役・牧大介氏)は、株式会社西栗倉・森の学校が発展して生まれた地域活性化やまちづくりを手がける会社です。この会社の事業所が滋賀県高島市に設置されたことから、清水さんをお招きしました。今後、当NPOも連携して活動していけたらと感じました。

総会では、21名の会員の出席により2015年度の総括や2016年度の方針を決め、今後2年間の会の活動を担う役員を再選し、代表理事は田村宏明さんが続きます。また、これまで事務局を担っていた3名の方が卒業された代わりに、新たに3名の学生の方が加わっていただきました。2016年度も当会は引き続き、都市の人々の暮らしと農山村の人々の産業とを結び取組を強めて行きます。引き続き、会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。(白石)



プレゼンテーションされている清水さん



あいさつされる当会理事の栗山さん

林業 BAR で飲食を楽しみました

5月28日と6月18日に「魔法にかかったロバ」という店で開かれた林業 BAR に行きました。林業 BAR とは林業に絡めたユニークな食事や、愉快なお客さんとの会話を楽しめる場所です。

当 NPO の会員でもある店長の竹内さんにこの BAR のことを教えてもらってからずっと行きたいと思っており、今回念願がかないました。

ユニークな食事のメニューというのは「山 Show! モヒート」「ヒノキ角ハイボール」「ローストバンビちゃん」「シカのしぐれ煮」などなど…。面白くてつい注文したくなりますね。ジビエ料理がメインでしたが臭みはまったくなく、おいしかったです。

カクテルは、以前百年サロンで講演していただいた古原さんが作っていただきました。古原さんはバーテンダーもやってらっしゃった方なのでカクテルは本格的です。ヒノキのキューブの入ったハイボールなど洒落のきいた、そしておいしいお酒を楽しむことができました。

どの料理もおいしく、また多くの人ともお話ができここにしかない時間を過ごすことができました。8月以降は未定だそうです、皆さんも参加してみてくださいはでしょうか。(瀬戸山)



ヒノキキューブ入りの角ハイボール



ローストバンビちゃん

間伐・製材体験会に参加しました



かかり木が倒れる途中の様子

6月19日に開かれた「京都林・材・建青年会議所の間伐・製材体験会」に参加しました。山林経営から、製材、建築まで幅広く手がける伊東木材さんの所有林での間伐と、製材所での加工を見学してきました。青年会議所のみなさん、特に京都府森林技術センターの足立さんに色々なお話をうかがうこともできてよかったです。

間伐では実際に体験させていただきました。チェーンソーでの間伐は初めてで、倒す方向に注意して伐ったつもりでしたが、思い通りの方向に倒れずかかり木になってしまいました。今回のかかり木はプロセッサという、丸太を掴んで指定された長さに切って枝葉を払う重機で引っ張ってもらうことで解決しましたが、重機が使えない山奥でかかり木を処理する時に重大事故が起こりやすいと聞きました。

山林で伐倒した素材はそのまま製材所へ運ばれ板に加工されました。のぎりの位置を示すレーザーが素材の後ろから当たっていて、それに合わせて板の厚みを調整する方法が印象的でした。間伐から製材までの一連の作業が午前中に終わったことも驚きでした。(青山)

8月以降に開催予定の主なイベント

当 NPO 主催に加えて、ブース出展を予定している主なイベントを列挙してみました。関心のある方のご参加をお待ちしています。他にも関連のありそうなイベントをご存知の方は、事務局までメールにてお知らせください。

- ・地域産木材利用に於ける天乾材備蓄の意義（8月5日@亀岡市東部文化センター）
- ・北山丸太本仕込み（8月27、28日@中源）
- ・京都京北 木こり技能大会（9月17、18日@あうるの原っぱ）

- ・もくもくフェスタ（9月24日@丹州木材市場）
- ・全国育樹祭（10月9日@府民の森ひよし）
- ・伏見区民祭（10月16日@京都市伏見区）
- ・北山杉・里山コンサート（11月5日@北山丸太生産協同組合）
- ・長岡京市環境フェア（11月19日@長岡京市中央公民館）
- ・ライフ・アンド・フォレスト（2017年1月上旬@開催地未定）

❖連載❖（森林・林業小話 26）

薪をどれだけ作っているかが謎

本紙 No.33 に、国内の薪生産量がピーク時に比べて200分の1以下になったと書きました。エネルギー関連の統計でも1980年代半ばには項目から姿を消していますし、熱源としての位置づけはだいぶ小さくなりました。一方で、日本暖炉ストーブ協会のウェブサイトによると会員会社の販売台数は1995年から2015年にかけておおむね増加傾向です。2011年の東日本大震災に伴う原発事故以降、木質エネルギーへの関心が高まっているとの話もあり、薪の生産量は増えてきているはずで

す。実際に、林野庁の特用林産物生産統計のデータをみると、2006年に戦後最少を記録してからはやや増加に転じました。ところが、2013年から2014年にかけて生産量の総合計が微減し、北海道や長野の数値が鹿児島より低くなっています。京都には関西で最大級の薪生産業者がいるのに、それを反映した数値ではないようです。薪は自家消費が大半を占め、量の把握が難しいのは事実ですが、他の特用林産物も含めてもう少しきちんと生産実態を把握してほしいものです。〈野瀬〉

京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものになることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO 法人京都・森と住まい百年の会をご紹介ください。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。

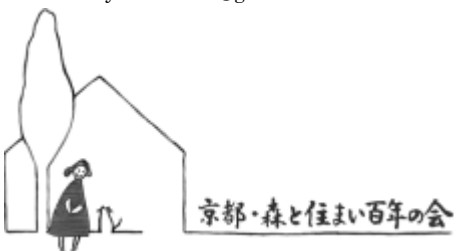
ホームページ<<http://www.kyoto100.com/>>

ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

〒604-0931 京都市中京区寺町二条下ル榎木町 98-7

FAX : 050-3309-6365

E-mail: kyoto100nen@gmail.com



編集後記

個人的に、4月からフルタイムでの勤務が始まり、四苦八苦しています。（野瀬）



本紙は、平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原 Grant」の助成を受けて発行します。